寄書

潮位記録から見た 1946 年南海地震後の広域地殻変動

小林昭夫1)*•吉田明夫2)

- 1) 気象研究所
- 2) 地磁気観測所

(2003年10月6日受付,2004年1月28日改訂,2004年2月4日受理)

Crustal Deformation in and extended Area after the 1946 Nankai Earthquake Deduced from Tide Gauge Records

Akio Kobayashi and Akio Yoshida

- Meteorological Research Institute,
 1-1 Nagamine, Tsukuba-shi,
 Ibaraki-ken 305-0052, Japan
- Kakioka Magnetic Observatory,
 Kakioka, Yasato-machi, Niihari-gun,
 Ibaraki-ken 315-0116, Japan

(Received October 6, 2003; Revised January 28, 2004; Accepted February 4, 2004)

Abstract

We investigated crustal deformation after the 1946 Nankai earthquake using tide gauge records. Although resolution of tide gauge records is not so high for seeing the temporal change in detail, vertical crustal movements whose relaxation times are between several months to years can be detected by them. It was reported that there had been a postseismic crustal deformation with a time constant of 4-5 months in southern Kii Peninsula (Kobayashi et al., 2002). In this paper we show that crustal deformations with a longer relaxation time of a few years were observed in northern Shikoku, examining tide gauge records at such stations as Takamatsu, Sumoto and Kobe. These

* Fax: 029-851-3730,

E-mail: akobayas@mri-jma.go.jp

observations suggest that there was a time lag in the development of postseismic slip between shallow and deeper parts on the plate interface after the Nankai earthquake.

1. はじめに

1946年南海地震後約3年の間に、四国北部を中心 として 20~30 cm の地盤沈下があったことを,河角 (1956) は潮位記録と海岸調査を基に報告している. Thatcher and Rundle (1979) と鷺谷 (1999) は, この沈降変動を震源域より深部で生じたプレート間の 余効すべりによるものと考えた. 一方, 小林・他 (2002) は紀伊半島の潮位記録から、南海地震後に 4~5ヶ月の時定数を持つ地殻変動が存在したことを 明らかにし、それを紀伊半島南部から紀伊水道下にか けてのプレート境界面上のすべりにより説明した。こ のことは、南海地震後に異なった時間スケールの余効 すべりが、それぞれ紀伊半島と四国の下で生じたこと を示唆する. 大地震の前後における地殻変動の時間・ 空間的な推移についての情報を得る上で、1946年南 海地震当時の潮位観測データは貴重である。ここでは 紀伊半島および四国の、入手できたすべての潮位デー タを使って, 南海地震後の広域地殻変動の再検討を行 う、今回解析に用いた観測点の配置を Figure 1 に示 す.

2. 紀伊水道付近の潮位変化

小林・他(2002)は、浦神の日平均潮位データに理 論潮汐による潮汐補正および気圧補正を施し、南海地 震の影響を受けていない内浦との潮位差をとることに よって、紀伊半島南部で地震後に時定数4~5ヶ月の 顕著な緩和的地殼変動が生じたことを示した. 今回新 たに徳島県豊益の自記記録(1947, 1949年)を入手 したので、それを基に紀伊水道付近の余効変動を再考 する. まず豊益の自記記録から毎時潮位を読み取り, それから日平均潮位 (Table 1) を計算して、それに 潮汐および気圧補正を施した、理論潮汐補正には、近 接した小松島の値を使用した、津村(1963)によれば、 豊益は下津および神戸と潮位偏差が共通している海域 にあるので、これらの地点間の潮位差をとることによっ て、相対的な地殻上下変動を見ることができると考え られる. Figure 2 に 1947 年の豊益と下津, 神戸と下 津の日平均潮位差を示す.豊益と下津の潮位差からは, 1947年1~3月にかけて豊益の潮位が相対的に10